
スピリットサッカーR

灯宮義流

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

スピリットサッカー

【コード】

N4981D

【作者名】

灯宮義流

【あらすじ】

未来の世界。サッカーは飛躍的すぎる進歩を遂げていたらしいです。

ここは遠い遠い、もう言いたくなくなるくらい未来の世界。
そんな未来になったって、人間は飽きもせずサッカーサッカー言
ってました。

でも、やっぱり同じことしてもつまんないってことで、ルール
は大分変わってました、いいんです。未来だから。

「おうおうおうおうおう！ 今おうって何回言ったか言ってみ
る」

「……七回！」

「君は偉い、人を良く見ているなあ、すげえよ。おいみんな、相
手には人を見る目がある奴いるから注意しろよー！」

「そこ！ くだらない話してると退場にするぞー！」

今では試合前の駆け引きなんて日常茶飯事なもんです。まあ大体
はこうして止められますが。

ところで、未来ともなると、重力を操ったりできるからすごいで
すよね、そんなわけで、この360度サッカースタジアムには重力
がありません。

もう、だからボールは自由なんです、人に蹴ってもらえれば、彼
は自由になれるんです。

まあボールの人生がどうなるかはさておき、いよいよ試合開始で
す。審判さんが選手を連れてやってきました。

選手はみんな、昔みたいに動きやすい服装なんてしません。鎧を
着たり、物々しい格好したり、とにかく戦闘に適した格好をします。
どうしてかは……もうすぐにわかります。

「プレイボール！」

「あ、てめえ野球の審判じゃねえか。土足で踏み入りやがって、このスパイ野郎！！」

「あれね？ しまったー！ すいません、うっかり間違えちゃって」
「知るか！ 食らええええ！ フレームボンバースパークキーツク！！」

ドーーーーン！ という爆発が起きたかと思うと、審判の人は跡形もなく粉微塵になってしまいました。もうモザイクかけないと見てられないです。

そうです、もう未来のサッカーは戦場なのです、関係ない奴が入ってこようものなら、こういうことになってしまっんです。

あ、ちなみにスパイとか言ってますが、別に野球選手とサッカー選手が戦争してるわけではありません。

邪魔者がいなくなったところで、ようやく試合開始です。

「キックオフ！！」

「いきなりサンダーライトニングトルネードシュートオオオ！！」
「バキーツ！！ と人の骨が折れる音がしました。」

「アウチ！！ アウチ！！」

ボールを取りにいこうとした相手の選手が、もろにこのサンダーライトなんちゃらを足に食らったのです。

足はもう黒こげ、これでは義足でもつけない限り再起は不可能と
言えるでしょう。

めめそと泣きながら、怪我をした選手は退場して、代わりの選手が入ってきます。

すごいですね、体がでかいし、全身に武装してますよ。こんなものを持ち込んで、何をやる気なのでしょうか？

「よくも兄貴を！ この試合絶対に勝つぞ！！」

「「「オーウ！！」」」

「試合再開！！」

「いくぜ、ファイナルウルトラスーパーガンデストロイヤーー！！！！」

チユドドドドドドドと、辺りに弾薬の嵐が飛び交います。見境なしに飛んでいきます。

客席は一応ガラス張りされてますが、予算がなくて、あんまり頑丈じゃありません。

関係ないところに放たれた弾薬のいくつかが、客席に飛んでいったかと思うと、あとはもう周りのガラスが真っ赤になるだけでした。キヤーキヤー！！ という歓声が辺りから巻き起こります。

これは派手ですから、盛り上がるんでしょうね。

「おのれー！！ まずはお前から潰してやるぜー！！ グレートさぬきウドンが今月はなんと大特価で半額だぞパーンチ！！」
「な、何い、こうしちゃいらねえ、スーパーいつてくるぜ！！」

すると全身弾薬庫さんは、銃を全部捨てて、スタジアムから出て行ってしまった。なんか財布探ってます。完全に面白い物モードみたいです。

「タイム！！ くそ、選手補充だ！！」

また向こうのチームは選手を交代しました。さっきの審判の名残か、ウグイス嬢がアナウンスしちゃってます。

「八百屋の佐藤さんだ！ そっちが商売人使ってくるなら、こっちも商売人だぜ！」

「何を！！」

そして佐藤さんが、ニコニコしながら相手チームへと向かっていきます。

「いつもお世話になってるからねえ、これ一本サービスするよ」

「うおおおお！！ 佐藤さーん！！」

すると、全身武器男を退散させた男は、佐藤さんの人情に負けて寝返ってしまったではありませんか。

言うまでもないですが、仲間の人たちはカンカンです。とても汚い言葉が飛び交っています。

でも言われてる男は、もう佐藤さんの人徳に惹かれまくっています。まるで飼い猫のように手馴れられています。

「再開」

という審判の声と同時に、彼は一斉に元仲間達に襲われてしまいました。

骨の折れる音とか、肉が千切れる音とか、もう後は聞きたくないというような音がしばらく続きました。

彼等が満足してその場を離れると、そこには男の人の骨が転がっていました。

「なんと可哀想なことだ……」

佐藤さんが、哀れな姿になってしまった彼の骨に近づきます。すると、骨が急に爆発しました。

気づいた時にはもう遅し、佐藤さんは爆発に巻きこまれて、見るも無残な姿になりました。

燃え盛る佐藤さんの身体を見て、チームメイト達は、ショックのあまり膝をつきます。

「佐藤さー！ーん！！」

「チクショー、なんてエグイことをしゃがる、アイツラアア！！」

「絶対相手チームには負けねー！！ 佐藤さんの仇をとるぞー！！」

ついに一致団結した彼等は、仲間の無念を晴らすべく、改めてボールに向かう。

あー、ようやくサッカーらしくなった。

「俺達は絶対に勝つんだ。死んだ佐藤さんのためにも、そして、俺の貴子たかこのためにも！！」

ここでようやく主人公らしい人が出てきましたね、と思ったら一気に試合が始まりましたよ。

彼は、一気にボールを奪うと、跳躍して相手の頭上を舞いました。これぞ無重力の力というものですな。

そして、足に何かエネルギーを溜め込みながら、ムーンサルトキックでもかますように、身体を海老反りさせました。

サッカーなのに、まるで棒高跳びみたいな感じになってきました。

「くらえ外道ども！！ 海老菓子ファイヤー！！！！」
そのまま彼はシュートをぶちかましました。物凄い勢い、物凄いスピードです。

おまけに、これは海老反りの効果なのか何なのかはわかりませんが、すごいカーブしています。

この無茶苦茶さなら、きっとドリフトレーサーも真っ青してくれるはずだ！

「う、うわああああ！！ 俺は海老が大嫌いなんだ！！！！」

ここで運の悪いことに、キーパーの海老嫌いが発動して、シュートは誰にも防がれることなく、入りました。

誰がなんと言おうと、そのシュートは見事に決まりました。笛がなります。

「ピピピピ！！！！ 試合終了！！！！」

やったー！ と、佐藤さんがいたチームが歓声をあげます。とても都合の良い時間に試合が終わりをつげたのです。

相手チームは、そりゃもう悔しそうにしています。よほど勝たなかったんでしょう、残念なことです。

見ている者の誰もが「都合主義」という言葉を思い浮かべる前に、シュートを決めた男はある所に目かけて一直線に走ります。

「貴子ー！！ お父さんはやったぞー！！！！ 勝ったんだー！！！！」

男は、娘の所まで急いで走ります。でも、元気な娘さんはそこにはいませんでした。

あつたのは、銃弾に貫かれて、血みどろになって倒れている、彼の娘さんの死体が倒れていました。

そんな……と男はまた膝をついて、肩を落としました。まさか、試合に夢中になりすぎて、最愛の娘を失うことになるとは。

とても空しい絶叫が、辺りにしばらく反響しました。

「いやー、すごい試合でしたねー、解説の島西さん？」
「あ、ごめんなさい。漫画読んでました」
「もうクビにされますよいい加減にしないと。じゃあ今回のゲストで、歌手のミッチーコさんに一言いただきましょう。」

「……………」
「あー。知らないうちに撃たれていたみたいですね」

「げげー！！ 俺の漫画に返り血がついてるじゃないか！！ なんてことだー！！ ちくしょおおお」

「……………そろそろ苦しくなってきたところで本日の放送を終わります。明日は、アマクダリーズ対セツタイーズの試合をお送りいたします。では、ごきげんよう」

2008年1月某日・とある少年サッカーチーム

「コーチ、俺サッカーやめるよ」

「え?! どうしたんだ今道いまみち！ お前、将来プロサッカー選手になるって、念願のレギュラー入りも決まったじゃないか！」

「なんていうか……………未来のサッカーに希望が持てないんです」

(後書き)

途中から技の名前が寒くなっていくのを肌で感じていました。報われない貴子。

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4981d/>

スピリットサッカーR

2008年11月7日08時12分発行